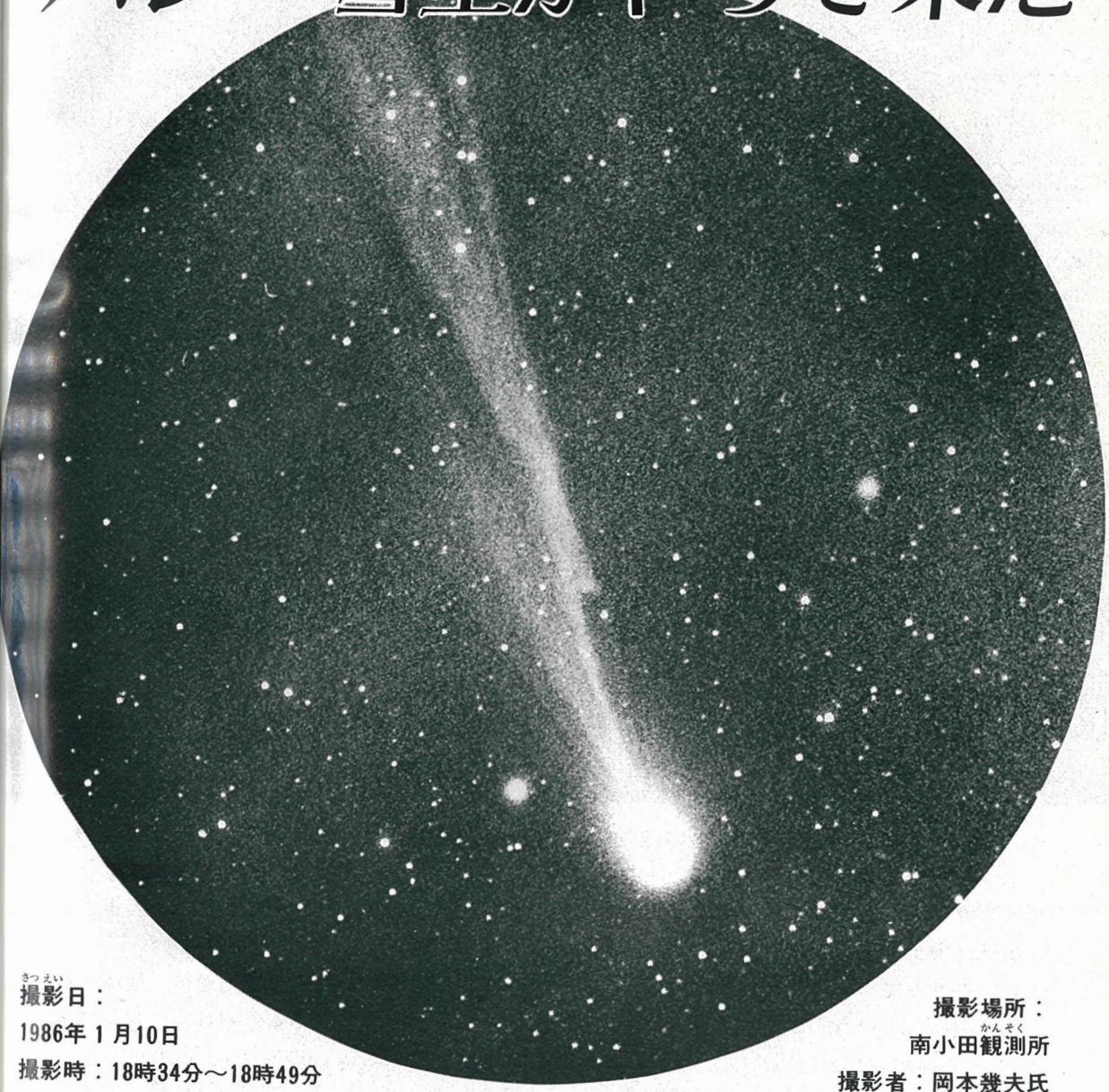
グラフ・ハレー彗星★

ハレー彗星がやって来た



撮影日：
1986年1月10日
撮影時：18時34分～18時49分

撮影場所：
南小田観測所
撮影者：岡本幾夫氏

76年ぶりのハレー彗星の再来とあって，世の中はまさに“ハレー彗星ブーム”・望遠鏡は売れに売れ，ハレー彗星の本もドッと売り出され，遠くオーストラリア，ハワイ，サイパンへの観測ツアーも“あっ”というまに定員オーバー．さらに，ハレー彗星アイス，ハレー彗星ブランデー，ハレー彗星テレフォンカード，ハレー彗星・春巻きの皮(？)と洪水のごとく“ハレー彗星”という名のブランド商品が登場しています．

そんな騒ぎをよそに，ハレー彗星は静かに旅をつづけています．ますます尾をのばし，光度も4等級ではなく2等級にはなるだろう，ハレー彗星の尾は曲がっているといった話題をなげかけつつ，“ハレー彗星ブーム”は，今，クライマックス！　(表紙の写真参照)

☆1985年８月15日．02時55分〜03時10分．福島県浄土平にて撮影．光度は16等級．

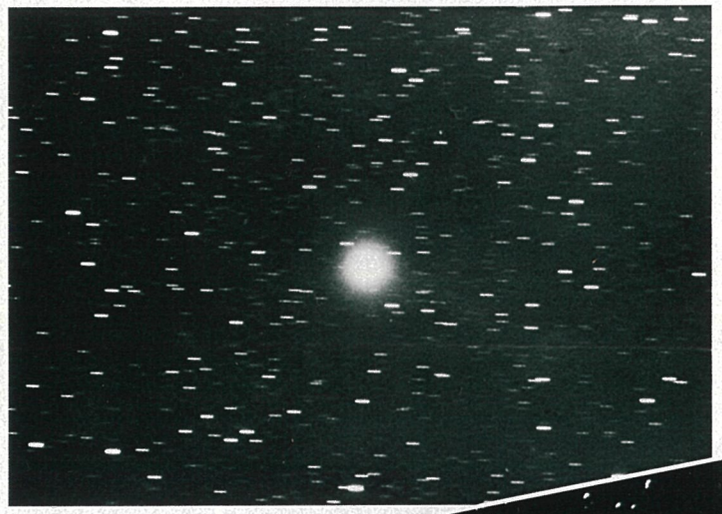
ボイジャー２号が，天王星の新惑星を発見し，現在，海王星めざし飛行をつづけていることは，わりとホットなニュースだから，きみたちもおぼえているでしょう．

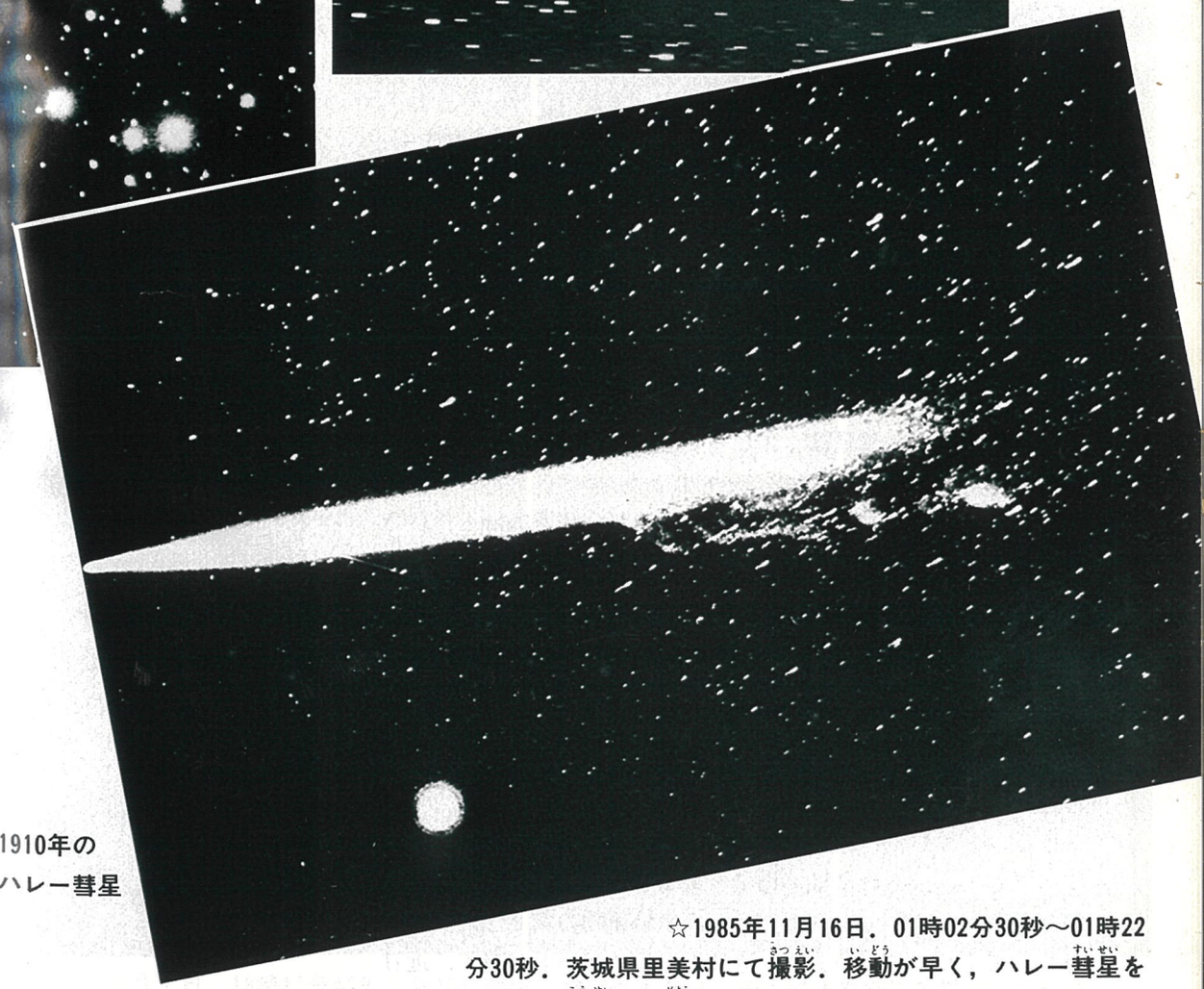
1910年，地球にわかれを告げたハレー彗星が，ボイジャー２号のめざす海王星の軌道をこえ，太陽からはるか53億kmもはなれた遠日点に達し，その大きなだ円軌道を，再び地球へと向かったのは，1948年のことでした．

そして，1982年10月16日，アメリカ・パロマ天文台の500cm反射望遠鏡によって，ハレー彗星は，かすかな，あわい光の点としてとらえられたのです．太陽までの距離は11天文単位（１天文単位は，太陽と地球の平均距離で，約１億5000万km）．明るさは，24等級でした．

1986年４月11日．近日点通過後，地球とハレー彗星とが最接近するその日，ハレー彗星と地球との距離は，6300万km．ハレー彗星の明るさは，北斗七星と同じぐらいの２等級になっているだろうといわれています．そしてその日をさかいにハレー彗星は再び遠ざかってゆき，やがてわれわれ人類の視野の外へと消えてゆくのです．しかし，ハレー彗星は，去ったあとも，ハレー彗星を母体とするみずがめ座η流星群（５月５日ごろ）やオリオン座流星群（10月22日ごろ）などのすばらしい天体ショーを用意してくれているのです．

光度16等級 ★ こんなにも小さいハレー彗星！





1910年のハレー彗星

☆1985年11月16日．01時02分30秒〜01時22分30秒．茨城県里美村にて撮影．移動が早く，ハレー彗星を追って撮影したため，恒星が線状に写っている．（上の写真）